

## 那須烏山市教育委員会による調査

那須烏山市教育委員会の確認調査では、現在の道に直交する形で幅2～3m×長さ10mを基準としたトレンチを設定し実施しました。道路遺構等が確認された場合は、遺構の断面や平面の一部を掘り下げて調査を実施しました。

丘陵の頂部付近の本市域の範囲のみの部分調査では、大きく3～4回の路面改修が行われ初期の路面には両側に側溝を持つことなどが確認されました。

地元でタツ街道と呼ばれている道と東山道跡が交差する地点の調査では、調査した本市域のみの範囲で側溝が確認されました。ただし、路面は現在の道路を改修した際にローム層まで削平されたため確認はされていません。側溝は道路片側の南側にあたり、大きく2時期あることが確認されました。第1期の側溝はローム層を掘り込んで造られており、確認された側溝の幅は1m70cm、深さは10cm。第2期の側溝は第1期の側溝中より掘りこんで造られており確認された側溝の幅は1m～80cm、深さは約20cm。また、2期目の側溝は、タツ街道との交差点付近でなくなることが確認されました。更に、タツ街道と交差する地点では、タツ街道に向かう掘りこみ面も確認されており、タツ街道と東山道駅路とは同時期に道路として使用されていたことが確認されました。この側溝の覆土中からは9世紀代の土師器壺が出土しました。

那須官衙跡に向かう喜連川丘陵下りかけ地点の調査では、丘陵の一支丘の南端に造られているためローム層を深く削平し、その上にロームと砂利質の火山灰等を混ぜて硬く叩きしめ盛土し、路面としているのが確認されました。別の調査地点では、丘陵を多く削平し、路面としていることが確認できました。ただし、土砂の流失等により路面幅は不明でした。

また、上りかけ地点の調査では、1度大きく改修された道路遺構が確認されました。路面幅は約8.5mで側溝があり、ローム層を深く削平しその上にロームと黒色土等を混ぜて硬く叩きしめ盛土し、路面として使用しているのが確認されました。その後、この路面の上に盛土し、両側溝の中心で路面幅約5.5mに造り替えられていることが確認されました。

那須官衙跡に向かう喜連川丘陵の頂部付近の平坦部地点の調査では、路面幅は約6m50cmでここでもローム層を削平し、その上にローム、黒色土と砂利質の火山灰等を混ぜて硬く叩きしめて盛り土し、路面として使用しているのが確認できました。このうち、初期の路面としたものは、丘陵北側の緩斜面部にのみ側溝が確認できています。側溝は、最大幅で約60cm、深さ約30cmでした。

那須官衙跡に向かう喜連川丘陵の下り、荒川を渡河する手前の低地地点の調査では、砂礫層を彫り込んで路面として造っているのを確認されました。路面は大きく2時期あり、いずれも両側溝があることが確認できました。確認できた1期目の路面幅は約10m、2期目の道路幅は約7mでした。